



公益社団法人

全国助産師教育協議会

Japan Society of Midwifery Education

No.96 2024. 10. 1

助産師教育のあるべき姿に向かって — 助産学実習 —

公益社団法人全国助産師教育協議会 会長

徳島大学大学院

葉久真理



2024年6月15日～16日に第15回（通算60回）定時社員総会を対面で開催することができ、多くの先生方にご参集いただきましたこと、書面を借りて感謝申し上げます。

今回の総会では、全助協の将来ビジョンに掲げてあります助産師教育における共用試験の実装に向けて、助産学共用試験実装推進委員会の報告並びに村上明美氏の教育講演を通して、これまでの取組み状況の整理と今後の方向性が理解いただけたことをアンケート結果から確認いたしました。今後の展開にあたっては、教員のマンパワー不足による負担、実施に伴う費用負担への心配などが軽減できるよう検討を進めて参ります。

また総会では、多くの養成校が困難な状況に直面している『学生1人につき正常産を10回程度直接取り扱うこと』に対する対応は、具体的な策を検討するところまで話し合うことができませんでしたが、養成校のおかれた様々な状況が聞かれました。この助産学実習に関しては、2005（平成17）年に、「分娩取り扱い件数の10回程度とは具体的に何回以上をさすのか」との助産師に関する質問主意書が提出され、「9回を下回った場合に、10回程度に満たない」との答弁書が提出されています。その後、2015（平成27）年に、2つの県から「助産学実習に係る分娩取扱数基準の規制緩和：能力習得に影響のない範囲で実習必要数を8回程度に減らす（地方分権改革に対する提案募集312）」という意見が出された経緯もありましたが、「助産師としての基礎的知識技術を身につける最低の線」としての数であるという一貫した回答が出されています。

助産師教育においては、産科施設の集約化によっ

て助産学実習施設の確保に困窮し、ハイリスク妊産婦が増加する中、正常産を10回程度直接取り扱うことが益々困難となり、対象者の安全と快適さを確保しながら刻々と変化する分娩期を継続的にケアする観点から、実習指導を担当する教員や実習指導者の負担は大きく、人材確保にも苦慮している現状が続いています。助産学実習は、助産師としてのアイデンティティの形成と知識技術の習得において核となるものです。助産師に関する質問主意書が提出されてから約20年後の今、全助協の調査結果等を集約すると共に、皆様の知恵と経験を結集し、助産師教育の質の維持及び向上に向けて前進していきましょう。引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

参考

- ・助産師に関する質問主意書&答弁書

<https://www.sangiin.go.jp/japanese/johol/kousei/syuisyo/162/meisai/ml62001.htm>

- ・地方分権改革に対する提案募集／厚生労働省からの一次回答

https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/doc/tb_27_kaitoul_11_1_mhlw.pdf

※看護師等養成所の運営に関するガイドラインでは、『取り扱う分べんは、原則として正期産・経膈分べん・頭位単胎とし、分べん第1期から第3期終了より2時間までとする』『助産学実習において、分べん第1期のアセスメント及び支援ができ、分べん介助の途中で吸引分べん、鉗子分べんに移行した場合は、1回の分べんとして算入して差し支えないこと』となっている。

扉.....	1
教育・活動報告	2
ニュース	4
わかばの部屋	5

全助協からのお知らせ	6
トピック	7
理事会報告	8

第49回 全国助産師教育協議会 全国研修会報告書

テーマ「助産師を取り巻く環境の多様性」

九州・沖縄地区

遠賀中央看護助産学校 助産学科 原 田 加奈美

第49回全国研修会は、令和6年2月24日（土）にパネルディスカッションを開催し、2月24日（土）～3月10日（日）16日間に九州・沖縄地区研修会を併会した講演を開催しました。COVID-19感染症の影響を大きく受けた中、助産ケア実践の必要性和助産師の活動の広がりを感じ、助産師を取り巻く環境の変化（多様性）に応じた「助産師のあり方」を考える機会にと、幅広い視点の内容を提供できる研修会を企画しました。

1. 研修受講状況

参加者は、会員227名、非会員66名、学生47名。最後まで視聴した受講率は61～68%でした。

2. 研修会内容（テーマ）と講師

1) パネルディスカッション（2/24のみ）

テーマ「女性の分娩方法選択に関する共有意思決定支援～麻酔分娩が選択肢となるととき～」

講演 1	女性の分娩方法選択に関する共有意思決定支援 ～妊娠期・分娩期において麻酔分娩が選択肢になるとき～	総合母子保健センター 愛育病院 今井 晶子先生
講演 2	麻酔分娩についての相談を受けた時の女性と家族への支援	埼玉医科大学 野口 翔平先生
講演 3	麻酔薬使用の実際と女性への対応（安全管理）	北里大学 日向 俊輔先生
講演 4	女性の分娩方法選択に関する共有意思決定支援ができる助産師を育てるために	神奈川県立保健福祉大学 田辺けい子先生
ディスカッション	①女性と助産師がともに進む共有意思決定支援 ②女性を主体とする支援のための専門職連携	ファシリテーター 田辺けい子先生

2) 講演

講演 1	「助産師の働き方・働く場所」の多様性	鹿児島中央助産院 北村 愛先生
講演 2	「性（SOGI）」の多様性	順天堂大学 武田 裕子先生
講演 3	「開業・連携」の多様性	NPO法人にこり 久保 陽子先生
講演 4	子宮頸がん撲滅に向けた他職種連携について （九州・沖縄地区研修会）	宮崎県立看護大学 川越 靖之先生

3. アンケート結果

研修会の内容について『満足した』『まあ満足した』の回答割合が92～98.2%と非常に高く、そのうち意見の多かった記載については以下の通りです。

パネルディスカッションは「各講師の話はわかりやすく麻酔分娩の理解が深まった。」、講演は、講演1「助産師のあり方等、講師の話しに大変感銘を受け、視野が広がり様々な活動の場があると実感した。」、講演2「当事者の貴重な話から理解の浅さに気づき、現状と対象理解、支援について非常に学びになった。」、講演3「助産師の専門性を発揮できる場面の多様性について考えることができた。」、講演4「子宮頸がんについて再認識する機会となり、助産師として関わる支援をさらに考え活動をしていきたい。」でした。

研修会の全体については、「多くの学びがあった。」「オンデマンド配信により参加しやすかった。」等との感想とともに、「視聴速度の調整ができると良かった。」「資料がダウンロードできると良かった。」等のご意見をいただき課題が残りました。

最後に会員の皆様のご協力に厚く感謝申し上げます。

2024年度 第15回（通算60回） 公益社団法人 全国助産師教育協議会定時社員総会報告

2023－2024年度 全国助産師教育協議会副会長
札幌医科大学 正岡 経子

2024年6月15日（土）・16日（日）に、第15回（通算60回）の定時社員総会が東京女子医科大学弥生記念講堂にて、5年ぶりに対面・現地開催で行われました。その概要を報告いたします。

6月15日（土）の開会冒頭では、葉久真理会長から今回の総会では、全助協の将来ビジョンに掲げている助産師教育共用試験の実装に向けて、これまでの取組みの経緯と今後の方向性について理解いただきたいこと、さらに、この共用試験の評価等においては、独立した認証機関が必要なことから、一般財団法人日本助産評価機構と協働して取り組んでいくこと、また、教育課程別検討会では、多くの養成校が直面している『学生1人につき正常産を10回程度直接扱うこと』が、年々困難な状況になっており、助産師教育の質をさらに高めながら現実に即した対応について検討いただきたいことが説明されました。そして、助産師教育のあるべき姿にむけて委員会活動や地区活動を行なっていたという委員長はじめ委員の皆様、地区長の皆様に、感謝が述べられました。

続いて、ご来賓の文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官の渡邊美和様から「看護系大学の現状と課題～助産師教育の動向を含めて～」、厚生労働省医政局看護課教育体制推進官の勝又明子様から、「看護行政の動向と助産師教育への期待」、こども家庭庁成育局母子保健課母子保健指導専門官の内田愛子様から「母子保健の動向と助産師の役割」についてご講演いただきました。

総会では、議長に白石三恵氏（大阪大学大学院）、議事録署名人に小林正子氏（新潟青陵大学）、坂田清美氏（帝京平成大学）が選任されました。正会員総数336名中287名（うち決権委任状70名）の出席があり、定款第30条に基づき総会が成立していることが報告され、議案の審議に入りました。

まず、2023年度の事業報告として正岡経子副会長（総務担当）から委員会等活動報告、九州・沖縄地区の関屋伸子氏（地区長総括代理）から地区別活動報告および第49回全国研修会の報告がありました。2023年度事業報告に対し、会員から「現在、麻酔分娩が増加している背景があることから、今後の分娩介助件数の調査をする際には、分娩内容の詳細な調査が必要と考える」との意見がだされました。葉久

真理会長より、教育課程別検討会において正常産の分娩介助について検討する予定であり、各会場で現状について討議をお願いしたい旨が説明されました。以上の質疑応答の後、事業活動報告は、過半数をもって承認されました。次に、小川久貴子副会長から2023年度収支決算についての説明、続いて井村真澄監事から監査報告があり、過半数をもって承認されました。また、正岡経子副会長（総務担当）から役員選挙管理規程の一部改正（案）について説明があり、過半数をもって異議なく承認されました。

休憩の後「分娩介助実習の現状と今後の対応」について、教育課程別検討会を行いました。短い時間ではありましたが、活発に討議がなされました。全体報告会では少子化の中、正常分娩の介助が困難であり、誘発分娩や吸引分娩の他、合併症を有するハイリスク事例も臨床の判断のもと分娩介助を行なっている現状が報告されました。また、麻酔分娩事例の実習展開については、教育機関や地域による差が大きいことが報告されていました。

6月16日（日）の2日目は、地区別打合せ、新地区長の挨拶の後、助産師教育の発展を目指した取り組みとして3つの講演がありました。まず、助産学共用試験実装推進委員会担当の谷口千絵理事から当協議会の将来ビジョンを具現化する活動の1つとして「助産学共用試験の全国的な実装に向けた取組み」について説明がありました。次に組織強化委員会（国内・国際）担当の永松美雪理事から助産師教員の教育力向上・保証を図る対策の1つとして「助産師教員キャリアラダーレベルⅢ認証制度について」説明がありました。また日本助産評価機構の江藤宏美理事から「助産師教育の質保証と分野別評価の必要性」について説明頂きました。最後に、教育講演では、助産師教育研修研究センターの村上明美センター長から「助産学共用試験のこれまでの取組みの経緯と今後の方向性」というテーマで、CBTシステムの構築やOSCEの実用化に向けた具体的な取り組みと今後の展開について写真を交えて説明いただきました。

最後に、小川久貴子副会長が閉会の挨拶を述べ終りました。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

プレコンセプションケアの中の包括的性教育に取り組み四半世紀

昭和大学助産学専攻科 教授

上 田 邦 枝

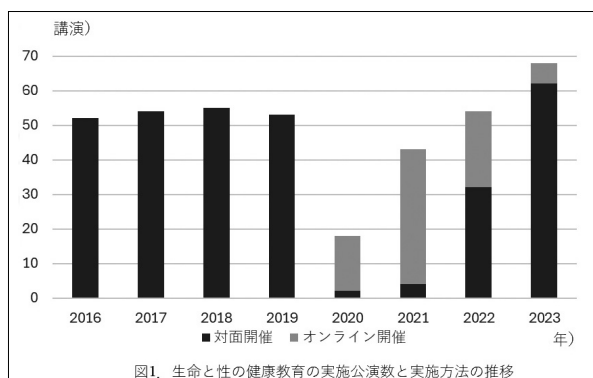
私が「生命と性の健康教育」をはじめて、約四半世紀が経とうとしています。日本の若者の健康課題であるプレコンセプションケア（以下、プレコン）の中に存在する包括的性教育は、国際セクシュアリティ教育ガイダンスの出版によって大きく前進しました。内容としては、1. 人間関係、2. 価値観・人権・文化・セクシュアリティ、3. ジェンダーの理解、4. 暴力と安全確保、5. 健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル、6. 人間のからだと発達、7. セクシュアリティと性的行動、8. 性と生殖に関する健康と、多岐に渡ります。日本ではまだ十分に浸透しているとはいえない現状もありますが、私たち助産師が日頃から携わっている内容が多く含まれています。「生命と性の健康教育」の活動を振り返りいえることは、助産師が積極的に学校教育に参画し、生命教育、性教育を担うことの重要性です。人の一生涯に携わり、性の多様性に触れ、健康へと導いている助産師だからこそ、語ることでできる事象、みえてくる人の感情やいのちの素晴らしさがあります。つまり、教科担当の先生方が経験したくてもできない生命や性の現状を言葉豊かに語り、男女問わず人として、健康管理を促すことが専門職である助産師としての役割だと考えられるからです。

講演会は図1のようにCOVID-19の影響はありましたが、3年間の継続的な積み上げ式教育のご依頼

も多く、増加傾向です。中学生の講演会では、1年生は画像や体験を重視した生命教育、2年生は性の情報などのディスカッションで、性の多様性や自己認識に触れ、性の価値観の構築を支援します。さらに、3年生では予期せぬ望まない妊娠や性感染症の予防に特化し、性の自己決定・自己責任の意識を高めます。プログラム重視ではなく、対象の実態を把握し柔軟性をもって内容を吟味し、さらに、一方通行でなく参加型・体験型で、生命や性の健康を実感し、記憶に残してもらうことを心がけています。他にも、妊孕性に関する知識、子宮頸がんのワクチンの最新情報、LGBTQ（LGBTQIA）の対象理解、性暴力に対する対応・対処など、約5～8分の内容をパッケージ化し、組み合わせることにより、学校の多様なご要望に応えられるようにしています。SNSで多くの情報が入手できる時代だからこそ、正確で最新の情報提供が求められ、ウェルネス思考で、健康な人をより健康に導き、未来の準備のためのプレコンを、たくさんの助産師の方に担って頂きたいと思っています。

将来的には、栄養や運動を含めたさまざまなプレコンの内容が学校教育においてカリキュラム化をされることを期待し、活動を続けています。

皆様も助産師の活動の場とその可能性をより一層広げてみませんか。



助産師教育に携わって

日本赤十字社助産師学校

専任教師 水村友香

私が勤務する日本赤十字社助産師学校は、日本赤十字社が設置する日本赤十字社医療センターの附帯事業として運営されている施設です。1922年「日本赤十字社産院」の創設に伴い、付属施設「日本赤十字社産院産婆養成所」として創設され、2022年に100周年を迎えました。これまでに3,000名以上の助産師を輩出し、その多くは国内外で助産師として活躍しています。

私は、隣接する日本赤十字社医療センターで19年間、助産師として勤務し、今年の6月より助産師学校に異動となりました。臨床では、実践者としてだけでなく管理者としても踏み出したばかりであり、まだまだやり残したことが、やりたいことがあるなかでの異動でした。

異動後すぐに始まった実習では、先月までスタッフとして働いていた病棟に専任教師として実習に同行し、学生の学びを支援する立場の違いに戸惑い、どのように学生と関わってよいのか悩みました。その時、全国赤十字看護専門学校新任専任教師研修に参加する機会をいただきました。研修の中で「看護師として働いている時には、患者さんの様子を十分に観察して、アセスメント・ケアをしていたの

に、教師になったらなぜ学習者をあまり観察しないの？」と問われました。私の学生への関わりは、教育と看護を全く別の取り組みと捉え、自分独自の視点で物事をみて、学生の表情や態度、発言だけで表面的に判断し、学生を理解しようと態度や言動の背景にあるものを、みようとしていなかったと気づきました。

教育のものの意味は、「教えて育てる」ではなく、「産」に関わる人の営みの広い流れのなかで使われ、「産育」という意味で使われていたそうです。学校教育も出産・育児と本質的に同じ行為なのかもしれないと感じました。私は助産師として、一人の女性が身体の変化に気づき、お腹の中で見えない胎児を感じようとし、生まれたばかりの赤ちゃんからのサインをよくみて応え、母親になる過程を女性に寄り添い、育んできました。新たな環境に戸惑いつつも、学生と共に助産師教育の場を楽しみ、色々な視点で学生をみて個々の学生に寄り添い、育んでいきたいと思います。その中で、助産師として女性とその家族に伴走できる喜びを学生と共に感じ、その喜びややりがいを学生に伝えていきたいと思います。

◆医学書院 関連書籍のご案内

QRコードから書籍の詳細がご覧いただけます

助産雑誌 のご紹介

- ★「特集」では、助産の専門性に焦点を当て、助産師に求められる実践の存り方を探求。
- ★バラエティに富んだ連載をはじめ、「実践報告」「特別記事」「Report」など、最新の知識や動向が学べる記事も充実。
- ★臨床、研究、教育の場で活躍する助産師にダイレクトに情報を提供
- ★助産師から助産師に伝える架け橋となるような雑誌をめざしています

2024年の特集

- 第5号 助産師のためのLGBTQ+/SOGI入門
- 第4号 令和のお父さんのリアル ー男・夫・父である「僕」の話
- 第3号 保険適用の議論の前に知っておきたい 出産とお金のはなし
- 第2号 助産所でも診療所でも病院でも ここまでできる産後ケア
- 第1号 データでみる「助産所のお産」ー嘱託医療機関との連携で実現する安全性と継続性

隔月刊(偶数月)、年6冊
通常号定価:1,980円
(本体1,800円+税10%)
年間購読
冊子:11,022円
(本体10,020円+税10%)
電子:11,022円
(本体10,020円+税10%)
電子+冊子:14,322円
(本体13,020円+税10%)



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 <https://www.igaku-shoin.co.jp> [販売・PR部] TEL:03-3817-5650 E-mail:sd@igaku-shoin.co.jp

FAX:03-3815-7804

第16回（通算61回）公益社団法人全国助産師教育協議会 定時社員総会開催のお知らせ

担当理事

札幌医科大学専攻科助産学専攻 正岡 経子

日 程：2025年6月21日（土）・22日（日）予定
場 所：札幌医科大学 教育研究棟 I
住 所：札幌市中央区南1条西17丁目



本学は、新千歳空港駅から1時間半程度の札幌市内のアクセスのよい場所にあります。第15回の東京女子医大で行った社員総会を引継ぎ、助産師教育の質向上にむけた課題や対策を検討していきたいと考えております。北海道のさわやかな初夏の中で、会員の皆様のご出席を心よりお待ちしております。

*詳細は、追ってHP、マンスリーメール等でお知らせします。

第50回全国助産師教育協議会研修会のお知らせ

日 程：2024年11月9日（土）9時～14時
方 法：WEB開催（Live配信）
テ ー マ：『こどもを中心にした社会をつくる多職種連携と助産師教育』
担当地区：関東甲信越地区
担 当 校：昭和大学（上田 邦枝）
協 力 校：亀田医療大学（志村 千鶴子）、茨城県立医療大学（島田 智織）

内容の詳細はHP、マンスリーメール等でお知らせしております。ご確認ください。

【担当校から】

2023年4月「こども家庭庁」創設より1年以上が経過致しました。すべてのこどもの基本的人権を保障し、安全な養育環境を確保することができるよう、発展的に取り組んで行くことが求められています。さらに、助産師は、社会全体ですべてのこどもの将来を後押しするために、多職種と連携し継続した支援のあり方を追求していくことが重要となります。

そこで、こどもの尊厳を基本とし、今後の助産師教育に反映できる本テーマを決定致しました。

プログラムは、こどもとこどもを支える私ども女性の健康、さらに、多職種連携を図る上でのコミュニケーションのあり方をご講演頂きます。シンポジウムでは、特別養子縁組の組織団体の現状、乳児院や児童養護施設でのこども支援の実際。また、助産師基礎教育より教授することが必要な虐待を未然に防ぐための取り組みや診断など、多職種の取り組み内容を皆さまにご提供させて頂き、オンライン上でディスカッションし、助産師の役割や今後の課題などを深めてまいりたいと思います。

多くの方々にご参加頂けるよう準備を進めてまいります。

記念すべき第50回の全国助産師教育協議会研修会にどうぞご参加ください。

よろしくお願いいたします。

子ども虐待防止に助産師が期待されること

子ども虐待防止センター理事長

松田博雄

1990年約1,000件であった子ども虐待の児童相談所の相談処理件数は増え続け、2022年20万件を越し増え続けています。Child abuse、子どもを不適切に扱う、不適切な養育環境で子どもが育つことが「子ども虐待」であり、虐待かなと気づいたら通告することが周知されてきています。短縮ダイアル「189（いちはやく）」も定着してきています。そして、虐待を放置すると反応性愛着障害、学童期には発達障害の子どもたちに類似した行動特徴をきたし、終着駅は複雑型PTSD、多重性同一性障害、パーソナリティ障害、うつ、依存症、嗜癖などに陥る、予後が悪いことも明らかになっています。

子ども虐待対応は、世界各国同様な経過をたどると言われています。虐待などないという否認の時期、身体的虐待が認められ、ネグレクトも子どもの心身の成長発達に甚大な影響を与えることが明らかになり、通告や親子分離などの体制が整えられます。子ども虐待支援の過程で、虐待をする保護者も不適切な環境で育っており、支援が必要となります。そして、性虐待が子どもの心に極めて大きな影響を与えること、そして虐待を受けた子どもの心の治療が極めて難しいことから、虐待は予防に勝るものはないという段階です。わが国では2000年に児童

虐待防止法が制定され、現在市町村は子育て世代包括支援センターと市区町村子ども家庭総合支援拠点の双方の機能・役割は維持したうえで組織の見直しを図り、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に、生れる前から切れ目のない相談支援を行う「子ども家庭センター」の設置に努めることになっています。

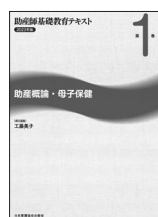
妊娠に気づき妊娠届を提出すると、様々な支援が開始されます。助産師は妊婦健診やパパママ教室などでほとんど全ての妊婦に会う機会があります。虐待ハイリスクは、これらの過程の中で把握することができると思います。そして、要保護児童対策地域協議会など、地域のネットワークと連携・協働することが期待されます。また、家族計画、性教育などでも、助産師の活躍が期待されます。

毎年厚生労働省から子ども虐待死亡事例の検証報告が出されています。その中で生まれたその日に死亡する、殺される事例が多いことから、まだ生まれていないが、特別な支援が必要な妊婦を「特定妊婦」として、児童福祉法で支援の対象としています。ここでも助産師に期待が寄せられています。

皆様の活躍を期待しています。

助産師基礎教育テキスト 2025年版

B5判



※改訂巻以外は
2025年2月刊行予定

第1巻 助産概論・母子保健

責任編集 工藤美子
頁数未定・定価未定

第2巻 ウィメンズヘルスケア

責任編集 吉沢響子
頁数未定・定価未定

第3巻 助産サービス管理

責任編集 成田 伸
頁数未定・定価未定

第4巻 妊娠期の診断とケア

責任編集 森 恵美
頁数未定・定価未定

第5巻 分娩期の診断とケア **改訂**

責任編集 佐々木くみ子 2024年9月刊行予定
頁数未定・定価未定

第6巻 産褥期のケア／新生児期・乳幼児期のケア

責任編集 江藤宏美
頁数未定・定価未定

第7巻 ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア

責任編集 小林康江
頁数未定・定価未定

新版助産師業務要覧 第4版 2025年版

編集 福井トシ子・井本寛子

※2025年2月刊行予定

教育・臨床現場や社会情勢の変化に鑑み、2024年版より「第4版」に全面リニューアル。読者の立場（学習者、実践者、管理者）に応じ、それぞれが必要とする内容に特化した巻構成

I 基礎編 （主に助産学生が対象）

B5判 248頁 定価未定

助産業務の根拠となる関連法規や各団体の文書に基づき、基本的知識を解説

II 実践編 （主に臨床助産師が対象）

B5判 320頁 定価未定

「助産師のコア・コンピテンシー」を構成する4つの能力を軸に、女性のライフステージ全般を見すえた助産実践に重点を置いて解説

III アドバンス編 （「アドバンス助産師」、中堅的・管理的立場が対象）

B5判 264頁 定価未定

より高度な助産実践を展開するために必要な、マネジメントや政策の視点を紹介



日本看護協会出版会

〒112-0014 東京都文京区関口2-3-1
(営業部) TEL.03-5319-8018 FAX.03-5319-7213
<https://www.jnapc.co.jp>

コールセンター（ご注文に関するお問い合わせ）
TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272

公益社団法人 全国助産師教育協議会

2023年度 第3回理事会次第

日時：2023年6月17日（土）16:00～16:30
場所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
出席監事：太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
出席幹事：永松 美雪、橋本 美幸（10名/10名）
出席幹事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：井上 理絵、藤井 宏子（2名/2名）

議事次第

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務関係
 - ①会長（代理理事）選定
 - ②新理事の担当委員会決定
 - ③副会長任命
 - 2) 次年度（第15回）定時社員総会開催検討

2023年度 第4回理事会次第

日時：2023年7月17日（月祝）13:00～15:10
場所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
出席監事：太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
出席監事：永松 美雪、橋本 美幸（10名/10名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）
陪席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事次第

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務関係
 - ①第1回臨時理事会（案）
 - ②個人会員入会
 - ③2024年度全国助産師教育協議会定時社員総会開催方法
 - ④自民党看護問題小委員会への要望書（案）
 - 2) 会計
 - ①事務局パソコン及び複合コピー機リース解約に伴う新規購入検討
 - 3) 将来構想委員会
 - ①シミュレーション動画公開、シナリオ使用ルール（著作権）、公表（出版や投稿）検討
 - ②将来構想委員会委員承認
 - 4) 助産師教育研究センター
 - 助産師教育研究センター運営委員会委員承認
 - 5) 教育検討委員会
 - 教育検討委員会委員承認
 - 6) 広報・社会貢献委員会
 - 広報・社会貢献委員会委員承認
 - 7) 資格・専門能力委員会
 - 資格・専門能力委員会委員承認
 - 8) 組織強化委員会（国内・国際）委員承認
 - 9) 特別委員会設置
 - Ad hoc委員会の設置承認
- III. 報告事項
 - 1) 将来構想委員会
 - 2023年度シミュレーション小委員会活動計画
 - 2) 助産師教育研究センター
 - 助産師教育研究センター運営委員会報告
 - 3) 教育検討委員会
 - 助産師学生の看護技術到達度及び実習状況に関する実態調査終了報告
 - 4) 広報・社会貢献委員会
 - 広報・社会貢献委員会活動報告
 - 5) 資格・専門能力委員会
 - 助産師国家試験プール問題公募の啓発・応募促進
 - 6) 組織強化委員会
 - ICM報告
 - 7) 助産師教育研究センター委員会

助産師教育研修研究センターの進捗状況

- IV. その他
 - 1) 関東・甲信越地区より
 - 関東・甲信越地区研修会
 - 2) 会長より
 - ①理事会・地区長会の年間スケジュール
 - ②「日本看護サミット 2023」後援名義使用
 - ③日本看護協会新役員披露会出席（7月20日開催予定）

2023年度 第5回理事会次第

日時：2023年10月1日（日）13:00～17:00
場所：全国助産師教育協議会事務局（ウェブ会議）
出席理事：葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子
出席監事：太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵
出席監事：永松 美雪、橋本 美幸（10名/10名）
出席監事：井村 真澄、渡邊 典子（2名/2名）
出席幹事：藤井 宏子、井上 理絵（2名/2名）
陪席：村上 明美（助産師教育研究センター長）

議事次第

- I. 会長挨拶
- II. 審議事項
 - 1) 庶務・総務
 - ①2023年度第4回理事会議事録（案）
 - ②第2回・第3回・第4回臨時理事会（メール審議）議事要旨（案）
 - ③2024年度全国助産師教育協議会定時社員総会開催場所検討
 - ④全国助産師教育協議会研修受講システム活用検討
 - ⑤プライバシーポリシー改訂（案）
 - ⑥役員選挙管理規程改定
 - 2) 将来構想委員会
 - ①助産師基礎教育における麻酔分娩の取り扱いや状況に関する実態調査
 - 3) 助産師教育研修研究センター
 - ①助産学実習指導担当非常勤教員向け研修規程（案）
 - ②e-ラーニングコンテンツ販売
 - 4) 教育検討委員会
 - ①2023年度助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価に関する実態調査（案）
 - ②助産政策への教育推進に向けた教員対象研修会（案）
 - 5) 組織強化委員会（国内・国際）
 - ①2023年全国助産師教育協議会活動マップについて
 - ②助産師教育キャリアアラダーに基づく研修内容と成果物および免除要件の提案
 - 6) 特別委員会：アドホックプロジェクト
 - アドホックプロジェクトの名称及び予算案
- III. 報告事項
 - 1) 庶務・総務
 - 2023年度正会員および個人会員の入会状況について
 - 2) 会計・事務局パソコン購入について
 - 3) 将来構想委員会
 - ①関東地区でのOSCE実施協力について
 - ②シミュレーション小委員会より動画作成進捗状況
 - ③将来ビジョンの課題整理
 - ④近畿地区研修会
 - ⑤第107回助産師国家試験問題適否の検討作業担当校について
 - 4) 助産師教育研修研究センター
 - 助産師教育研究センター運営委員会報告
 - 5) 教育検討委員会
 - 助産師教育修了・卒業時の到達度自己評価の推移（2019-2022年度）
 - 6) 広報・社会貢献委員会
 - 広報・社会貢献委員会報告
 - 7) 資格・専門能力委員会
 - ①資格・専門能力委員会報告
 - ②関東甲信越地区研修会
 - 8) 組織強化委員会
 - 全国研修会企画書案
 - 9) 助産師教育研修研究センター委員会
 - 助産師教育研修研究センターの進捗状況

分娩介助モデル「ひろこ」

LM-114 標準価格 ¥550,000(税別)

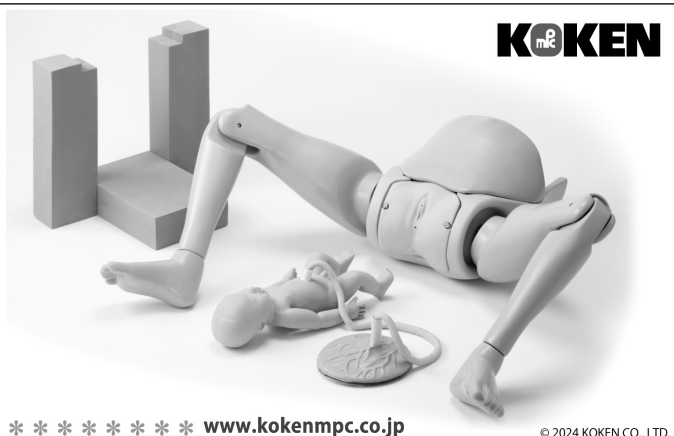
側臥位、四つん這いを含む正常分娩時の介助演習が可能です。
会陰保護から、胎児・胎盤の観察など一連の演習ができます。
下肢があるため、臨床に近い状態での演習ができます。
外陰部は旧製品の物（内診モデル外陰部Ⅱ型、
分娩介助モデル用外陰部Ⅱ型、裂傷縫合モデル外陰部）
をそのまま使用することが可能です。

株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)393-5115
東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580
大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

***** www.kokenmpc.co.jp

© 2024 KOKEN CO., LTD.



IV. その他

1) 会長

2023年9月5日開催 自民党看護問題小委員会報告

2023年度 第6回理事会次第

日時: 2023年11月12日(日) 13:00~17:00

場所: 全国助産師教育協議会事務局(ウェブ会議)

出席理事: 葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐 稔子

太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵

永松 美雪、橋本 美幸(10名/10名)

出席監事: 井村 真澄、渡邊 典子(2名/2名)

出席幹事: 藤井 宏子、井上 理絵(2名/2名)

陪 席: 村上 明美(助産師教育研究センター長)

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

1) 庶務・総務

- ①2023年度第5回理事会議事録(案)について
- ②第5回臨時理事会(メール審議)の議事要旨(案)
- ③2024年度全国助産師教育協議会定時社員総会開催場所
- ④厚生労働省及び文部科学省への要望書(案)
- ⑤2024年度地区長会開催内容
- ⑥全助協ロゴマークの使用の申し合わせについて
- 2) 将来構想委員会
 - ①分娩期のシミュレーション教育プログラム「考えてみよう研修」(Zoom)・「やってみよう研修」(対面)の開催
 - ②2024年度事業計画・予算(案)について
- 3) 教育検討委員会
 - ①助産師教育開始時における助産師学生の看護技術到達度および実習状況に関する実態調査(案)
- 4) 組織強化委員会(国内・国際)
 - ①助産師教員キャリアラダーに基づいた研修内容と免除要件(案)
- 5) 特別委員会: アドホックプロジェクト
 - ①助産学共用試験 CBT 作問研修会の実施予定
- 6) 会計
 - ①事務職員およびアルバイトの賃金改正
 - ②講師謝金「オンラインコンテンツ作成謝金」適応範囲

III. 報告事項

1) 将来構想委員会

- ①分娩期のシミュレーション教育プログラム「知ってみよう研修」(オンデマンド)
- ②実習における麻酔分娩時のケア指導ウェブアンケートについて
- 2) 助産師教育研修研究センター
 - ①助産師教育研修研究センター運営委員会報告
- 3) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会報告
- 4) 資格・専門能力委員会
 - ①資格・専門能力委員会報告
- 5) 助産学共用試験実装推進委員会
 - ①アドホックプロジェクト(以下、「助産学共用試験実装推進委員会」とする)報告
- 6) 九州・沖縄地区
 - ①全国研修会企画書案及び予算
- 7) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①助産師教育研修研究センターの進捗状況

IV. その他

- 1) 庶務・総務
 - ①2023年度個人会員の最終人数
- 2) 会計
 - ①個人会員の会費入金状況
 - ②2023年度下半期の支出に関する見直し確認
- 3) 会長より
 - ①第37回日本助産学会学術集会報告
- 4) 関東甲信越地区
 - ①会員(関東甲信越地区)からの質問事項確認

2023年度 第7回理事会次第

日時: 2024年1月6日(土) 13:45~17:00

場所: 全国助産師教育協議会事務局(ウェブ会議)

出席理事: 葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐 稔子

太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵

永松 美雪、橋本 美幸(10名/10名)

出席監事: 井村 真澄、渡邊 典子(2名/2名)

出席幹事: 藤井 宏子、井上 理絵(2名/2名)

陪 席: 村上 明美(助産師教育研究センター長)

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

1) 庶務・総務

- ①2023年度第6回理事会議事録(案)
- ②2023年度第6回臨時理事会(メール審議)議事要旨(案)
- ③2024年度全国助産師教育協議会定時社員総会日程(案)
- ④2025年度全国助産師教育協議会定時社員総会担当校検討
- ⑤全国助産師教育協議会ロゴマーク使用方法(案) HP掲載内容
- 2) 庶務・総務(正岡理事)・会計
 - ①2024年度事業計画・予算(案)
- 3) 将来構想委員会
 - ①分娩期のシミュレーション教育プログラム「やってみよう研修」(対面)について
- 4) 広報・社会貢献委員会
 - ①令和6年度 助産師学生交流会・ポスター発表会開催方法
- 5) 組織強化委員会(国内・国際)
 - ①助産師教員キャリアラダー・レベルⅢ認定制度規程(案)
- 6) 助産学共用試験実装促進委員会
 - ①助産学共用試験に関する書籍化
 - ②OSCE 評価者研修会の研修案内

III. 報告事項

1) 将来構想委員会

- ①分娩期のシミュレーション教育プログラム「考えてみよう研修」(Zoom)について
- ②将来ビジョンの課題整理
- 2) 教育検討委員会
 - ①「助産政策論教育方法オンラインセミナー」(2/12)
- 3) 広報・社会貢献委員会
 - ①広報・社会貢献委員会報告
- 4) 資格・専門能力委員会
 - ①第107回助産師国家試験問題協議会議事録
 - ②助産師国家試験プール問題公募啓発・促進事業アンケート結果について
- 5) 助産学共用試験実装促進委員会
 - ①助産学共用試験 CBT 多肢選択式問題作成研修会参加者募集開始について
- 6) 九州・沖縄地区
 - ①全国研修会企画書案及び予算について
- 7) 助産師教育研修研究センター
 - ①助産師教育研修研究センター運営委員会報告
- 8) 助産師教育研修研究センター委員会
 - ①助産師教育研修研究センターの進捗状況
 - ②2024年度の研修計画

2023年度 第8回理事会次第

日時: 2024年2月23日(金祝) 13:00~16:10

場所: 全国助産師教育協議会事務局(ウェブ会議)

出席理事: 葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐 稔子

太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵

永松 美雪、橋本 美幸(10名/10名)

出席監事: 井村 真澄、渡邊 典子(2名/2名)

出席幹事: 藤井 宏子、井上 理絵(2名/2名)

陪 席: 村上 明美(助産師教育研究センター長)

議事次第

I. 会長挨拶

II. 審議事項

1) 庶務・総務

- ①2023年度地区長会議事録(案)
- ②2023年度第7回理事会議事録(案)
- ③2023年度第7回臨時理事会(メール審議)議事要旨(案)
- ④個人会員入会・正会員退会承認
- ⑤2024年度定時社員総会日程(案) および進行等の担当者検討
- ⑥2024年度事業計画(案)
- 2) 庶務・総務・会計
 - ①2024年度事業計画・予算(案)
- 3) 教育検討委員会
 - ①助産師教育修了・卒業時到達度自己評価表の機関校における活用
- 4) 広報・社会貢献委員会

看護の知識と情報は常にアップデートしたい!



医療の現場は日進月歩。

「Will Friends」に登録(無料)して、最新情報をチェックしませんか?

Will Friends 運営団体: 一般社団法人日本看護学校協議会共済会 TEL: 0120-541713 (9:00~17:00土日祝日除く)

Will Friends
の会員登録は
コチラ▶

Will Friends 🔍



- ①助産師学生交流会
5) 関東甲信越地区
①第50回全国研修会
- III. 報告事項
1) 将来構想委員会
①助産師基礎教育における麻酔分娩の取り扱いや状況に関する実態調査」の進捗状況
②分娩期のシミュレーション教育プログラム
・「考えてみよう研修」(Zoom) 終了
・「やってみよう研修」(対面) 進捗状況
2) 助産師教育研究研修センター
①助産師教育研究研修センターの進捗報告
3) 教育検討委員会
①「助産師教育修了・卒業時到達度自己評価に関する実態調査
②助産政策論教育方法オンラインセミナー (2/12)
4) 資格・専門能力委員会
①資格専門能力委員会報告
5) 助産学共用試験実装促進委員会
①助産学教養試験実装推進委員会報告
6) 近畿地区
①2024年度近畿地区研修会企画案
7) 助産師教育研究研修センター委員会
①助産師教育研究研修センターの進捗状況
- IV. その他
1) 2024年1月19日開催
日本看護協会情報交換会参加報告
2) 2024年2月14日開催
日本看護協会「看護サミット2023」参加報告
3) 2025年10月10日・11日開催予定
第66回日本母性衛生学会学術集会後援決定

2023年度 第9回理事会議事次第

- 日時: 2024年3月10日(日) 13:00~15:10
場所: 全国助産師教育協議会会議室(ウェブ会議)
出席理事: 葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子、太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵、永松 美雪、橋本 美幸(10名/10名)
出席監事: 渡邊 典子
欠席理事: 井村 真澄(1名/2名)
出席幹事: 藤井 宏子、井上 理絵(2名/2名)
陪席: 村上 明美(助産師教育研究センター長)

議事次第

- I. 会長挨拶
II. 審議事項
1) 庶務・総務
①2023年度第8回理事会議事録(案)
②2025年度全国助産師教育協議会定時社員総会開催日程(案)
③正会員新規入会
④理事の辞任
2) 将来構想委員会
①将来構想委員会委員交代
3) 助産師教育研究研修センター運営委員会
①助産師教育ファーストステージ研修及びセカンドステージ研修規程改定について
②2024年度助産師教育ファーストステージ研修とセカンドステージ研修募集チラシについて
③助産師教員ラダー研修検討
④2024年度実習指導者講習会(特定分野: 助産) 募集案内
4) 全国研修会
①2024年度助産師教育協議会(第50回) 研修案内
- III. 報告事項
1) 将来構想委員会
①「助産師基礎教育における麻酔分娩の取り扱いや状況に関する実態調査」
②分娩期のシミュレーション教育プログラム「やってみよう」
2) 教育検討委員会
①助産政策論教育方法オンラインセミナーアンケート結果
3) 広報・社会貢献委員会
①広報・社会貢献委員会報告
②2024年度学生ポスター発表&交流会企画(案)
4) 資格・専門能力委員会
①資格専門能力委員会報告
5) 助産学共用試験実装促進委員会
①CBT作問研修会のアンケート結果
②OSCE評価者養成研修会のアンケート結果
6) 助産師教育研究研修センター委員会
①助産師教育研究研修センターの進捗状況
7) 庶務・総務
①2024年度全助協定時社員総会フライヤー(案)
②2024年度全助協社員総会議事冊子の掲載内容・第15回社員総会冊子表紙・第15回社員総会冊子目次・第15回社員総会プログラム確認
- IV. その他
1) 会長
①選挙スケジュールについて

2024年度 第1回理事会次第

- 日時: 2024年5月19日(日) 13:00~16:00
場所: 全国助産師教育協議会会議室(ウェブ会議)
出席理事: 葉久 真理、小川久貴子、正岡 経子、五十嵐稔子、太田 尚子、蛸崎奈津子、近藤 良子、谷口 千絵、永松 美雪、橋本 美幸(10名/10名)
出席監事: 井村 真澄、渡邊 典子(2名/2名)
出席幹事: 藤井 宏子、井上 理絵(2名/2名)
陪席: 村上 明美(助産師教育研究センター長)

議事次第

- I. 会長挨拶
II. 審議事項
1) 庶務・総務
①2023年第9回理事会議事録(案)
②2024年第1回・第2回・第3回・第4回臨時理事会(メール審議)議事録(案)
③個人会員入会・正会員入会・退会承認
④第15回全国助産師教育協議会定時社員総会の議事冊子(案)

- ⑤第15回全国助産師教育協議会定時社員総会運営スケジュール(案)
2) 助産師教育研究研修センター運営委員会
①助産師教育研究研修センター実習指導者講習会規定改定検討
②2023年度助産師教育研究研修センター報告書
3) 助産学共用試験実装推進委員会
①助産学共用試験実装協力依頼
(2024年度CBTのみ募集)
②2024年度地区研修におけるOSCE評価者研修開催協力依頼
4) 組織強化委員会
①助産師教員キャリアラダー・レベルⅢ認定制度規程(案)
5) 会計
①第15回全国助産師教育協議会定時社員総会会計冊子(案)
- III. 報告事項
1) 将来構想委員会
①将来構想委員会報告書
・麻酔分娩調査報告
・「実習施設の確保に関するヒアリング」及び「コロナ渦の教育評価」
②近畿地区学生交流会
2) 助産師教育研究研修センター
①助産師教育研究研修センター報告
3) 教育検討委員会
①教育検討委員会報告
4) 広報・社会貢献委員会
①広報社会貢献委員会報告
5) 資格・専門能力委員会
①資格・専門能力委員会報告
6) 助産学共用試験実装促進委員会
①助産学共用試験実装促進委員会報告
7) 全国研修会
①令和5年度全国研修会報告
・研修会参加者・視聴状況
・アンケート結果
・収支決算報告
8) 助産師教育研究研修センター委員長
①助産師教育研究研修センター企画研修進捗状況
- IV. その他
1) 会長
①日本助産評価機構 次期役員推薦
②The Princess Srinagarindra Award 2024受賞候補者推薦
③賛助会員の入会推進

編集後記

今年は猛烈な暑さとなり、38度を超える危険な暑さが続きました。ようやく異常気象も落ち着き秋のそよ風を感じています。

さて、2023年度の合計特殊出生率は1.20で過去最低であったことが発表されました。また、児童虐待相談件数の増加は続いています。昨今は子どもを産み育てやすい環境づくりを整えるために、助産師の実践能力が期待されています。「プレコンセプションケア」、「子ども虐待防止」、助産師教育に携わる皆様と一緒に探求する機会となれば幸いです。今後とも、このニュースレターを通じて助産師育成に係る教育活動・研究活動の質の向上を目指していきたい所存でございます。

望月千夏子(湘南医療大学大学院 保健医療学研究科 助産学領域)
井上 明子(愛媛県立医療技術大学 助産学専攻科)
北村万由美(広島国際大学 助産学専攻科)
坂田 清美(帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科)
近藤 良子(日本赤十字社助産師学校)

●助産師教育 NEWS LETTER No.96

2024年10月1日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会事務局
Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)
会長 葉久 真理

〒160-0003

東京都新宿区四谷本塩町7-9 四谷ニューマンション203号

TEL 03-6384-2075 FAX 03-6384-2076

(火・木・金 事務局在室)

<http://www.zenjomid.org/>

E-mail zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

※事務局は令和2年2月1日に
移転しました。

全国助産師
教育協議会
QRコード



<http://www.zenjomid.org/>
バーコードリーダーで読み取ってください